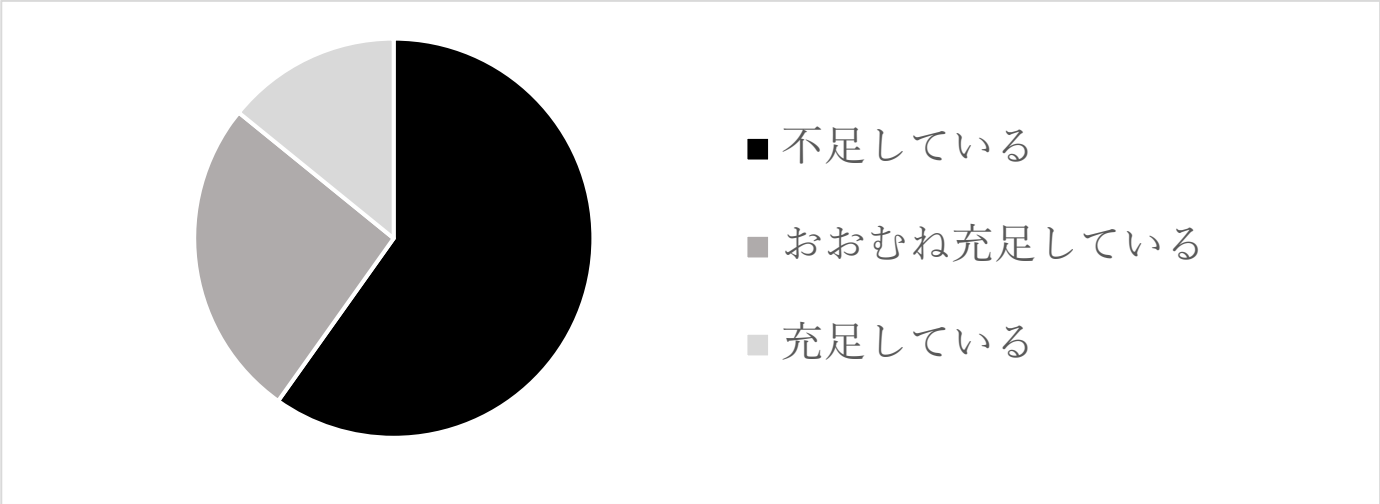
「インフルエンザワクチン供給状況の緊急調査」の結果報告

インフルエンザワクチン不足の調査について、会員の皆様にアンケートをお願いしたところ、1 週間で 254 名の方からご回答いただきました。ありがとうございました。結果についてご報告します。

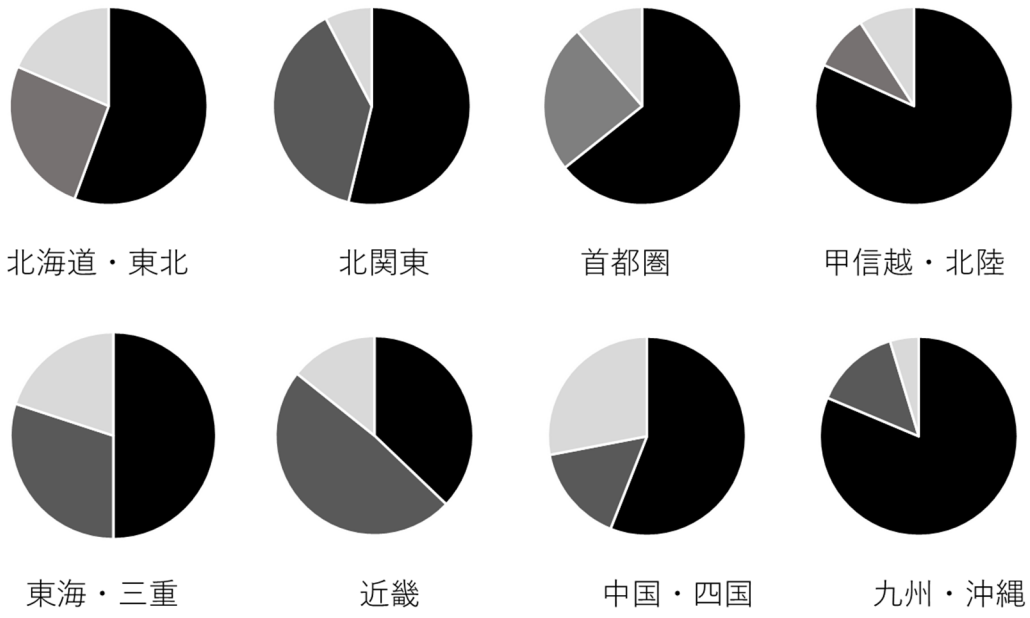
Q1　インフルエンザワクチンを接種されていますか？

254 名中 253 名　99.6%の方が接種されていました。接種していない　とお答えになった 1 名の方も、「本数は不足している」とされていますので、実は 100%の方が接種されているものと思われます。ただし、こういうアンケートの特性として、接種されていない方はアンケートに参加されていない可能性があると考えておかねばなりません。

Q2　貴院でのインフルエンザワクチンの 11 月 28 日（回答日）での充足状況をお答えください。



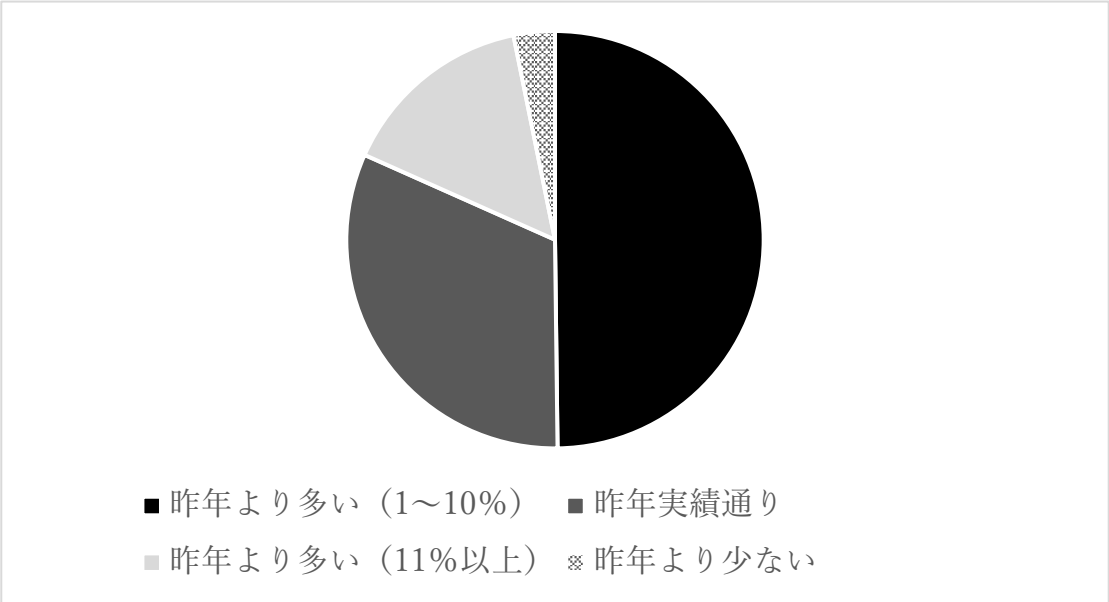
不足している（予定供給本数＜接種希望者）59.8%
おおむね充足（予定供給本数≒接種希望者）26.0%
充足している（予定供給本数＞接種希望者）14.2%
この結果を地域別にみると差が大きいようです



不足が目立つのは　甲信越・北陸、それと九州・沖縄地区です。80%以上の施設で不足していると報告がありました。県別では福岡で 17 か所中 16 か所が不足と突出しています。一方近畿圏は不足しているが 37%ともっとも少なく、大阪では 13 か所中 9 か所で、おおむね充足、充足でした。中国・四国地域でも 28%の施設が「充足している」と報告しています。

いつも問題となる　偏在が明らかになっている結果だと思われます。

Q3　予定本数は昨年と比べて



昨年より多い（1～10%増し）　49.8%　　昨年より多い（11%以上）15.1%
昨年と同じ　31.9%　　昨年より少ない　3.2%

多くの施設で本数は確保されており、供給量は増えています。国の公表されている増加分は届いている印象があります。

Q4　ワクチン不足のため今年から接種方法の変更を行いましたか？
特に変更していない　69.7%　　変更した　30.3%

Q5　供給不足のためにどのような対策を行っていますか？（複数回答可）

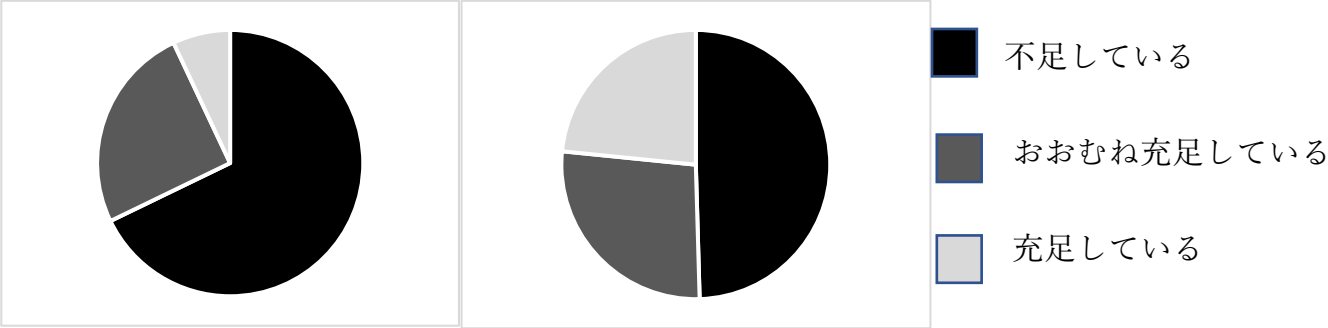
・予約患者以外の接種をしない（例　診察時間内の飛び込み接種を中止　など）　42 施設
・13 歳未満児での接種回数を小児科医会の考え方のように WHO 方式（9 歳以上は 1 回、生後 6 か月から 8 歳では前年度接種者は 1 回　未接種者は 4 週間隔で 2 回）またはこれに準じて接種回数を減らした。　42 施設
・接種年齢の制限（例　成人の接種を取りやめた　など）　21 施設
・自院かかりつけ患者以外には接種しない　20 施設
・接種回数の遵守（13 歳以上での 2 回接種を取りやめ）　20 施設
・WHO 方式よりもさらに接種回数を減らした（例　3 歳以上は全員 1 回　など）　5 施設

その他としては　接種期間の限定　接種日の限定（コロナ対策を兼ねて密を避けるため）　予約制を取りやめて、来院順に接種し、なくなれば終了。　などが挙げられています。

Q6　貴院の診療圏の自治体では、今年から新たにインフルエンザワクチンの助成制度ができたり、拡充されたりしましたか？

あり　56.3%　　なし　43.7%

半分以上の自治体が、新たな助成制度を設けたようです。



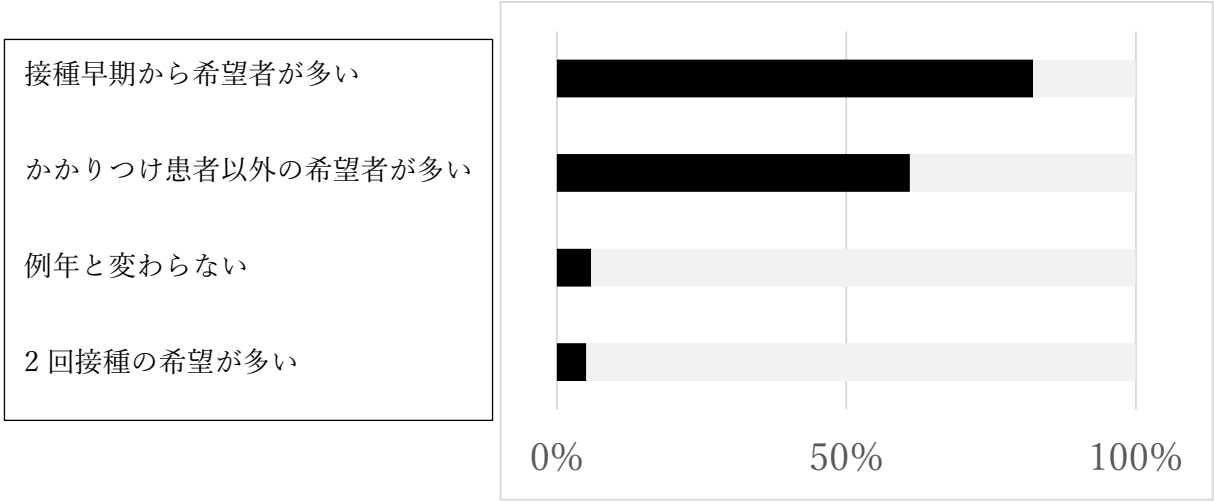
新たな助成あり　　新たな助成なし

新規の接種助成があるところでは　67.8%の施設が不足していると答え　新規の助成制度がなかったところは 49.5%で不足していました。　助成制度の新設がワクチン不足を助長したといえます。

Q7　今年から新たにはじまった助成制度を教えてください（複数回答可）

小児への接種に対して、新たな助成制度が始まった	96 施設
成人への接種に対して、新たな助成制度が始まった	85 施設
高齢者接種に対する制度が拡充された	27 施設

Q8　例年と比べて、今年のインフルエンザワクチン接種希望者の変化はありますか？（複数回答可）



国が高齢者からの接種を 10 月初めからとしたことで、子どもへの接種も早くなったようです。

早くからたくさんの回答をいただきありがとうございました。学会の HP で公表するとともに、この一部は、今年 12 月 20 日の日本ワクチン学会でも、発表したいと存じます。

2020 年 12 月 12 日

日本外来小児科学会　予防接種委員会
分析　委員会委員長　中村豊